

老健あおもり

RŌKEN AOMORI

2013
23号



公益社団法人 青森県老人保健施設協会

老健あおもり
2013.23

目次

巻頭言 ①

JCAT集合研修
に参加して ②

支部だより ④

特集 認知症ケア⑦ ⑥

料理自慢 ⑩

施設だより ⑫

青森県老人保健施設マップ ⑫②

表紙写真

蓮

巻頭言



介護老人保健施設の実情

介護老人保健施設

ニューライフ芙蓉

理事長

村上

惇

65歳以上の認知症の高齢者は約462万人、認知症になる可能性がある予備軍は400万人、2025年には10人に1人が認知症高齢者になるとの調査結果が公表された。

厚生労働省は2013年度から始まった「認知症施策推進5か年計画（オレンジプラン）」の中で、在宅ケア重視の方針を打ち出している。

在宅ケアと施設ケアをうまく組み合わせて、住み慣れた地域で暮らすとの考え方は理想的だが現実はどうか。

社会が高齢化しているなかで、施設の入所者の平均介護度は上昇傾向を示し、重度者（要介護度4～5、医療の必要度が高い、認知症）の方への対応に迫られているため、必然的に平均在所日数は年々増加傾向であり、自宅へ帰る方の割合も減少傾向である。

一方、核家族化が進み夫婦共働きの世帯や高齢者世帯では、重度者の在宅介護は困難を極める。

地域の現状に合った支援体制を構築することが肝心であるが、複合型サービスや定期巡回・随時対応サービスを始め、地方の在宅ケアはなかなかうまく機能していない。

「先が見えない」在宅介護を続ける家族にとって、短期入所や施設ケアに頼らざるを得ない現実がある。

平成24年度の介護報酬改定の目玉である、介護老人保健施設の在宅復帰支援機能についても、全体の約2.5割しか実施できていない状況にある。

青森県も介護を必要とする認知症の高齢者は3.2万人を超え、そのケアに多くの苦勞をしている介護老人保健施設は認知症に関連する介護報酬を手厚くしなければならぬのではないかと考えている。

今回の介護報酬改定によって介護老人保健施設の状況がどのように変化したのか、また、どの様な状況にあるのか実情を発信することで次回の改定に向けての足掛かりとしたい。

災害派遣チームJCAT 平成24年度集合研修に参加して

介護老人保健施設ヴィラ弘前
兼 平 満



去る2月26日、東京グランドホテルにて平成24年度JCAT集合研修へ参加しました。研修の内容については、3.11三陸沖を震源とする東日本大震災での被災体験、JCAT立ち上げるに至った経過や今後の活動等についての研修内容でした。東日本大震災で人的被害が最も大きかった施設では、入所者のうち、約8割が死亡・行方不明、職員の2割が死亡・行方不明となっている。三陸沿岸部では多くの介護拠点が失われ、無事であった老健等介護施設には被災者が集中し、定員を超過した状態が続き、職員が震災で犠牲になる等による職員不足から、24時間泊り込みでの勤務が連日続き、介護職員の負担が増したとされている。全老健では、地震発生翌日の3月12日に、災害対策本部を全老健事務局に設置、緊急物資の確保及び、被災地への職員派遣等の災害支援プロジェクトを立案・実施している。この震災での活動を通し、要介護高齢者への支援活動を目指すこととした介護支援チームのシステムの必要性を痛感、又、老健施設は、地域の防災活動の中核の一つに位置づけられることが望ましいとの事から、平成24年度老人保健推進費等国庫補助事業による介護老人保健施設における災害支援体制整備と災害派遣ケアチーム（JCAT）による人材育成等に関する調査研究事業を開始し、各県に於けるチーム立ち上げに向けての取り組みを開始することとなった。この災害では「想定外」の連鎖が混乱を招き、被害を拡大させた、東日本大震災の様な想定外の災害が、いつ、どこで起こるかを想定するのは難しい事だが、災害に伴う想定外の連鎖事象を想定内にする構えや備えはできる、その為の働きかけが大事である事を強く感じた研修でした。

平成24年度災害派遣ケアチームJCAT集合研修に参加して

介護老人保健施設ヴィラ弘前
小田桐 康 仁

去る2月26日、東京グランドホテルにて災害派遣ケアチームJCAT集合研修に参加させて頂きました。日頃より自施設の防災に関わらせて頂いており、とても興味のある研修でした。ですが、私も今回のお話を頂くまでは『JCAT』というチームの存在など知らずにおりましたし、現にまだ認知度は低いのではないかと思います。

JCATに関して色々と学ばせて頂きましたが、一番印象に残っているのは、JCATというのは『災害派遣チーム』である以上に『自施設の防災チーム』である事が必要であるという事です。

『まずは自分達の施設を守れ！ 全てを想定し、どんな災害にも負けるな！』
…と言われている様に私は直感的に感じました。

火災を例に挙げると、「火災が発生→通報・初期消火・避難誘導→避難完了」という一連の流れでしか防災計画は立てられていなかったと思います。ですが、一部損壊で済んだ場合はいいですが、もし全焼した場合はどうしますか、という事になります。

外での避難生活は限度があります。ではどこかへ避難しましょう…でもどこへ？避難場所が決まりました…でもこの人数でどうやって移動しますか？等の問題も出てきます。

他にも、オムツ交換やトイレ誘導が必要な方へのケアの問題。避難所での臭い・プライバシーに関して等、想定出来る事が沢山あります。

まずは自分達の施設の環境・想定出来る災害・リスクなど再度洗い出し、想定外であったという事が無い様に全て想定した上で常に備えておく。この事を痛感させられた、貴重な研修でありました。

支 部 だ よ り

青森地区研修会報告

介護老人保健施設 ニューライフ芙蓉

第13回東北地区介護老人保健施設青森大会が市内3会場で行われたため、興味の湧いた演題を選択し、各会場を梯子しました。

日本介護支援専門員協会全国大会、東北ブロック介護支援専門員研究大会も同時に同会場で開催されているため、会場案内は混沌としておりましたが、同時に熱気も感じられました。

初日の基調講演の中では、介護保険における医師の役割の重要性もさることながら、介護だけ、もしくは医療だけでは、利用者の生活は成り立たないとし、職種によって違う多様な視点を活かした事例検討の必要性が語られていました。

やはり近年話題に上ることが多い「在宅復帰」・「医療と介護の連携」を強く意識した講演や発表が多く、介護保険法改正による新たな展開として、一度施設に入所・入居してしまうと、自宅や地域に戻るのが容易でない現実の中、老人保健施設は医療とリハビリ、介護の専門家が集う場としていかに地域社会に貢献するためのかわりが提供できる条件を整えていけるのかを求められていることがあらためて理解できた。

様々な理由で在宅復帰が困難な方をいかに支援していけるのか、各老健施設単独では決して不可能なことでも、青森地区および東北全体で共有協力しうる体制を築く為にも、さらに発展し、有意義な大会であってほしいと思います。



多職種がかかわり、密にコミュニケーションをとり、在宅復帰または自立を促していくことが利用者の為であり、職員間の連携を強くし、より良い施設となっていくのではないかと思います、実践していきたい。

医療の必要性や要介護度の高い利用者が増えてきて、看取りへの取り組みも検討しなければならない一方で、在宅復帰へも取り組んでいくことも必要であり、入所前からの関わりがやはりとても重要だと感じた。

転倒予防についての発表で、フットケアを実施することにより下肢機能の改善、歩行バランスの改善がみられたとあり、当施設でも取り入れたいと思った。

発表の為の内容もありましたが、利用者1人1人の状況に合わせ時間をかけ密に接することで、今まで以上のサービスを提供できることの重要性を改めて感じ、今の現状のサービスの提供に満足せず、今後も色々な角度から利用者を見ながら、少しずつでも良いサービスを提供できるようにしていきたい。

利用者1人1人に合ったレクリエーションを提供し、良い刺激となった生活を送っていただいているとあり、利用者に達成感と喜びを与えることができるレクを提供できるように、自分がレク係を任されたので、がんばっていきたいと思います。

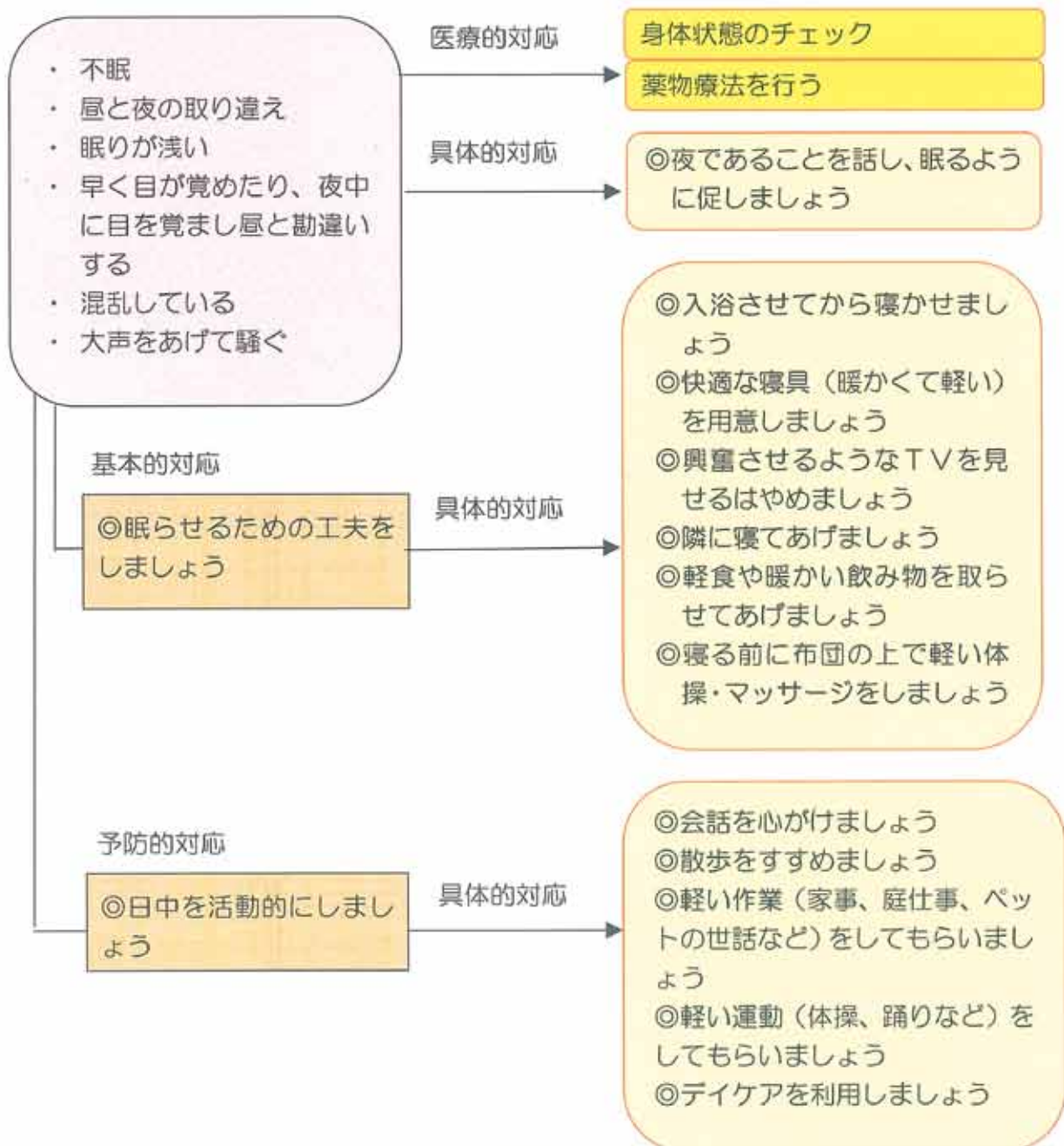


不眠、昼と夜の取り違え

★ 夜眠れない、昼と夜を取り違え、騒ぐ

お年寄りが、夜間眠れずに大声をあげたり、家を飛び出したりする行動は、家庭介護の限界を迎えやすい症状のひとつです。お年寄りだけでなく家族も疲労してしまいます。

原因はさまざまですが、こうした行動を防ぐには、日中に散歩や軽い運動をさせたり、家事の手伝いや庭仕事をさせるなど、日中の生活を活動的にすることが必要です。長く続けば、専門医を受診して、薬物療法を受けた方がよいでしょう。家族の誰か一人に負担のかからないように交代で世話するなど、介護条件を整えることも必要です。



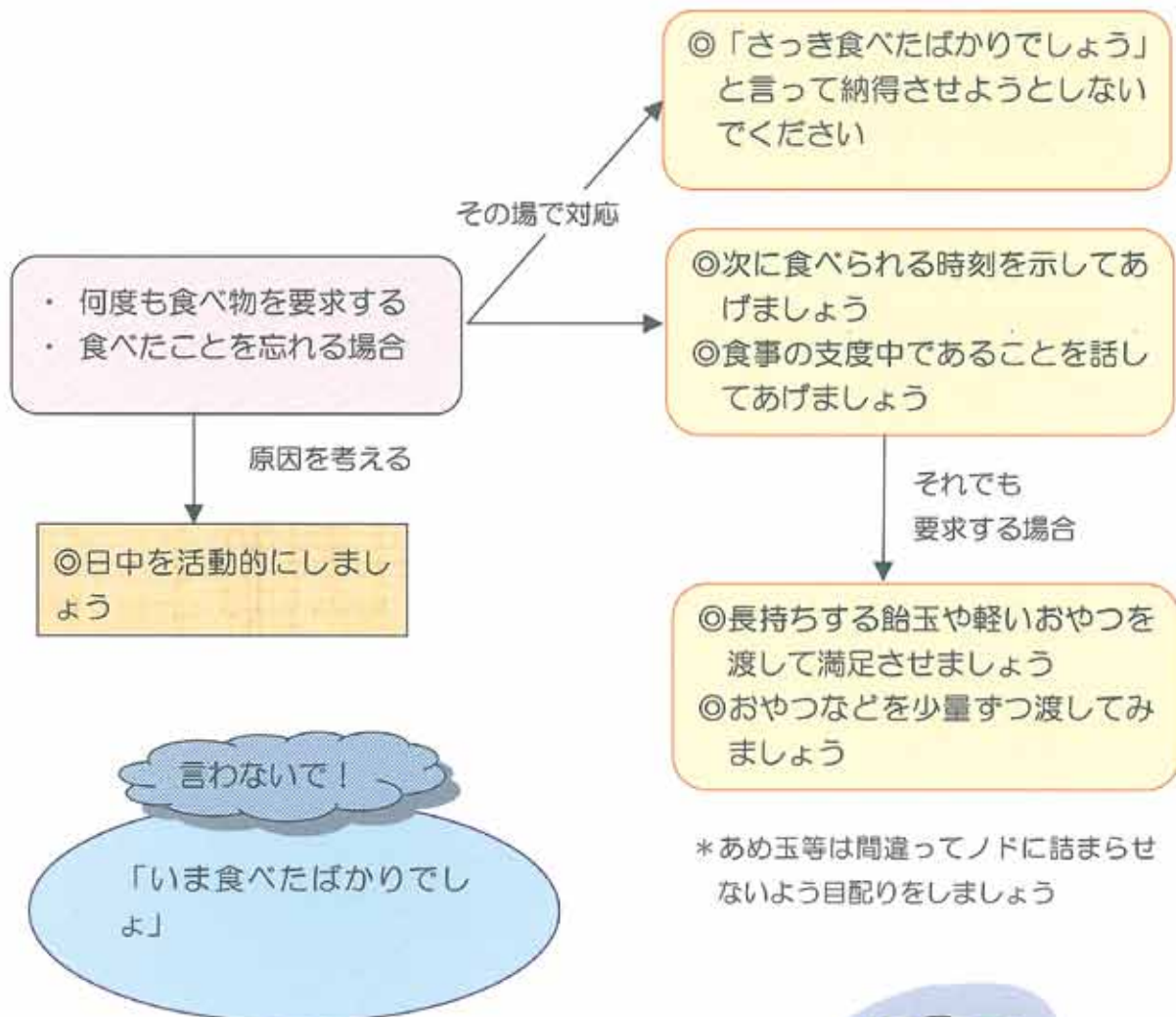
引用文献：認知症を知るホームページ WWW.e-65.net 一イーローゴ・ネット

食べたことを忘れる

★ 食事をしたのに「食べていない」という

お年寄りが、食事をしたのに「食べていない」と言って、何度も食べ物を要求するのは、食べたことを忘れてしまう、また脳の満腹中枢が侵されている、欲求不満を食べることで満たそうとした結果によって起こるものです。

「いま食べたでしょう」と言っても、本人は納得できないのです。「これから用意するところだからもう少しまってね」と言ったり、おやつやおにぎりなどを少量ずつ渡すなどして、食べることの満足感や期待感を満たしてあげることが大切です。



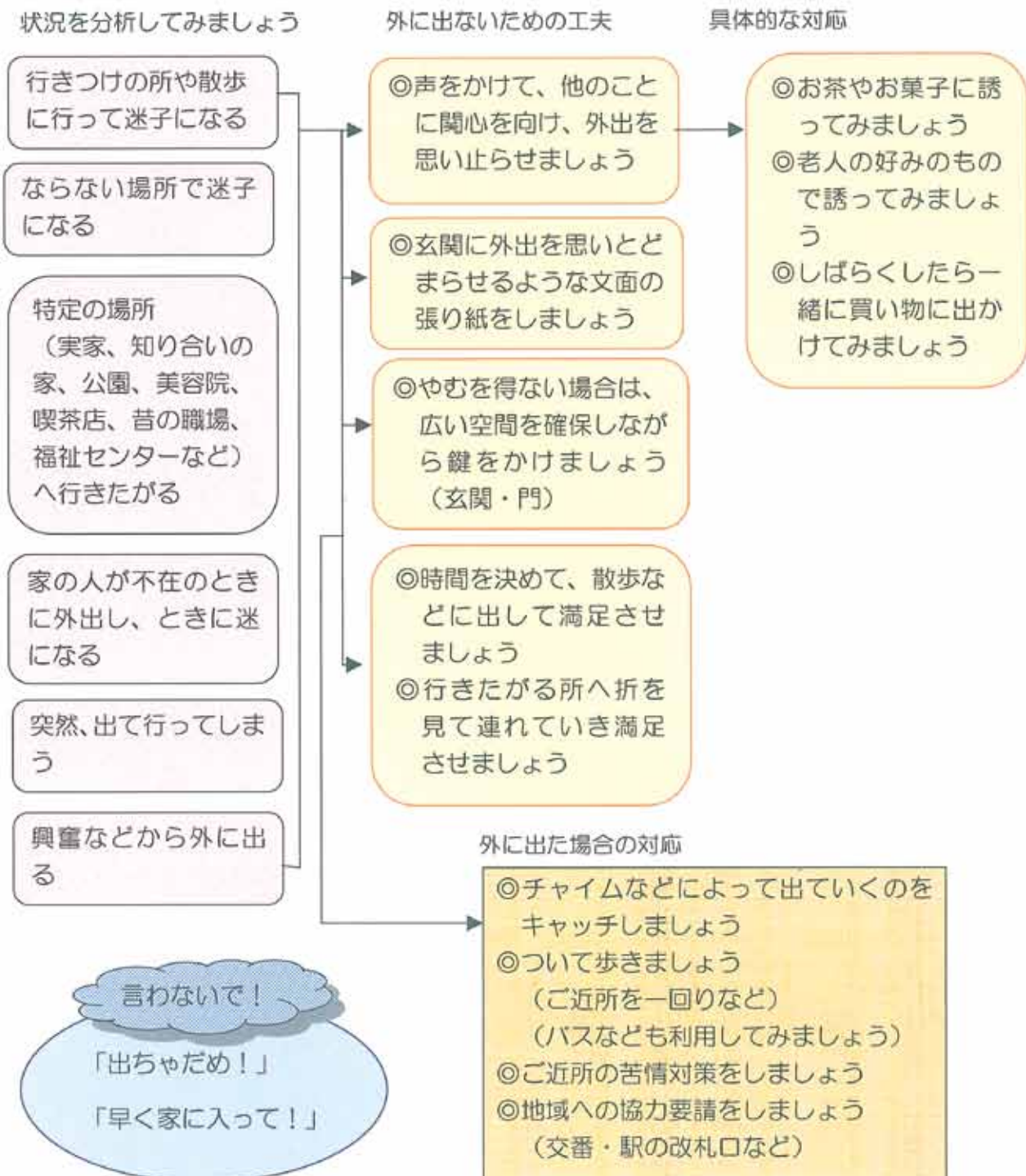
*あめ玉等は間違ってもノドに詰まらせ
ないよう目配りをしましょう



徘徊<原因と対応>

★ 道に迷う、あてもなく歩き回る（徘徊）<原因と対応>

道に迷う、あてもなく歩きまわるといった徘徊は、ご家族にとっては「事故にあっているのではないか」「行方不明になったら」という不安で精神的に大きな負担となります。しかし、お年寄りにはそれなりの理由があるのです。徘徊の原因、お年寄りの欲求を冷静に考えて対応していきましょう。



引用文献：認知症を知るホームページ WWW.e-65.net —イーローゴ・ネット—

徘徊＜探すための工夫＞

★ 道に迷う、あてもなく歩き回る（徘徊）＜探し出すための工夫＞

お年寄りが迷子になった場合に備えて、衣服に名札を縫い付けておいたり、お守り袋に住所・氏名を書いた紙を入れておきましょう。さらに恥ずかしがらずに近所や知り合い、近くの交番などにも事情を話しておき、迷子になった場合に協力してもらえるようにしておきましょう。

探し出すための工夫

◎迷子札を使用し、万ーに備えましょう

◎近所の人に気をつけてもらうように協力をお願いしましょう

◎行き場所の見当がつけばそこを探しましょう

◎近所や心当たりを探して見つからない場合、保護願いを出しましょう

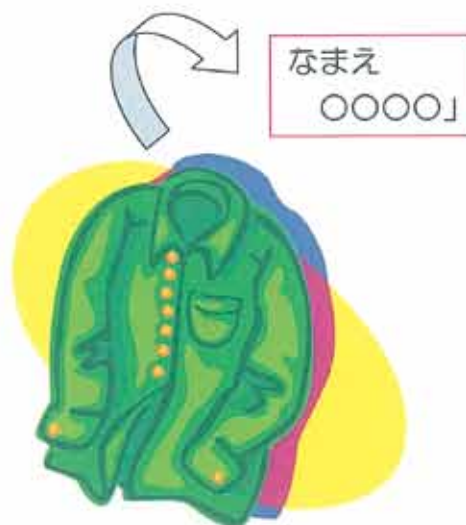
- ◎衣服に縫い付けましょう
- ◎ペンダントなどに住所、名前を彫りましょう
- ◎名刺などをいつもポケットやバックに入れておきましょう
- ◎お守りの中に名札を入れておきましょう
- ◎衣服などにマジックで書き込みましょう
- ◎通行人が目につくようなマークを着用させましょう

健康面への留意点

◎疲労、エネルギー消耗、水分補給

◎腰痛、足の痛み

◎事故防止（店頭、けが、衝突）



料理自慢

ヴィラ弘前 調理主任
船水伸公

介護老人保健施設ヴィラ弘前には、調理師が12名おります。それぞれが、自分の経験と技を持っており、毎月のお誕生日会食では、腕によりをかけて、ごちそうを振る舞っております。なかには、寿司を握れる調理師（3名）もあり、11月の寿司の日行事では、利用者様の目の前で握り披露しています。今回は、昨年12月に行われたクリスマス行事「ケーキバイキング」のケーキを紹介します。全て手作りです。ケーキは、全部で9種類。同じ材料で嚥下困難の方用にムースを4種類作りました。スポンジは、シロップを染み込ませて柔らかくしてあり、歯のない入所者様でも美味しく楽しんで頂けるように工夫してあります。ホールのケーキは、利用者様の目の前で切り分け、目でも楽しんで頂きました。

コーヒーを入れるのが趣味だったという利用者様に、コーヒーを入れて頂き、楽しく過ごしました。



クリスマスデコレーション



フルーツタルト



ブッシュドノエル



マロンムース

ミルフィーユ



苺ムース

チョコムース

抹茶ムース

オレンジムース



モンブラン

シャンティフリーズ



レアチーズ

抹茶ケーキ



消 防 訓 練

施設だより

介護老人保健施設

ニューライフ芙蓉

青森市

春の火災予防運動にあたり、消火設備保守契約業者の山田防災さん協力のもと当施設にて消防訓練を実施いたしました。消火器や消火栓設備の操作説明、スプリンクラーや自動火災報知設備の機能説明を受け、実際の火災を想定して避難誘導や消火訓練を行いました。

近年は社会福祉施設における火災が多数見受けられることから、防火への気持ちを引き締めるだけでなく、どのように防火を心がけるべきなのかといった点でも、高い防火意識が求められることを職員一同痛切に感じた訓練でした。



生き生き座位ダンス

毎日、生活リハビリとして、どなたでも馴染みの曲に合わせて、座って楽しく踊れることに喜びを感じています。曲が流れると自然に体が動き、今では一番の人気リハビリとなっている。

かつ、300種類のリハプログラムを計画し、毎日目標達成に向けて取り組んでいます。又、利用者様の心身機能を維持、改善することにより在宅復帰支援を目指し、努力しています。



施設だより

介護老人保健施設

平成の家

弘前市

祝入賞!!**靴下指あみ作品「龍の子太郎」**

靴下ハギシを細かく切り、発泡スチロールの板に貼り付けて製作した靴下指あみの「龍の子太郎」です。

利用者の皆様が、2か月をかけ協力し合って製作した縦60cm×横1mの大作です。なんと靴下指あみの本場、奈良県の全国大会で数ある作品の中から、見事入賞（優秀賞1名、入賞3名中）に選ばれました。

ご利用者様から、「入賞して嬉しい」「作るのが楽しい」「指先のいいリハビリになる」と喜びのお言葉を頂いております。

次は最優秀賞を目標に、ご利用者様、スタッフ共々、新作製作に張り切っています。



手芸クラブ

当施設では、入所者・通所者の方による手芸活動を実施しています。ティッシュカバーやバッグ、小箱やコースターなど、様々な作品を制作し、完成した作品は毎年秋に開催されるバザーにて展示しています。

また、講師をお呼びしてのちぎり絵制作も実施しております。作品を作り上げる喜びを実感し、他利用者と共に楽しい時間を過ごしています。



施設だより

老人保健施設

すずかけの里

青森市

毎月、様々なイベント

■「民芸製作体験“津軽塗（手鏡）” in津軽藩ねぶた村」（2013年3月14日）

1. 12回重ね塗りしてある漆のものを使用します。
2. 紙やすり（粗い目→細かい目）で水研ぎします。
3. 模様を揃えて仕上げます。

※その後、職人が仕上げの漆を塗り、磨きをかけ、2週間程度で完成品をお届けになります。



綺麗に出来でらべ♡



もっと擦れば
いんだべが？

後日、完成品が届き、完成品を見て感動していました。

が行われています♥

■「青森市文化観光交流施設 ねぶたの家 ワ・ラッセ」(2013年5月16日)



※一部都合により処理をしています。

初めて青森ねぶたを見た方もいて、大きさ、色鮮やかさに感動していました。

現在、館内では、今年の「東北六魂祭り2013」に参加するねぶたが製作されており、制作風景を見学することも出来ました。

■「子育て奮闘中」(2013年6月上旬)

当施設の外壁には、毎年、燕が巣を作ります。

今年も、たくさんの子供達が生まれました♥

元気に育って、大きくなってね♥



『誰かの為に。。。』

「何をつくりますか？」

「孫が財布を欲しいと言っていたから。。。作ってあげたいの。。。。

小銭を入れて持ち歩く、首に付けるのがいいな。。。。」

ある日の利用者様との会話です。

自分の。。。ではなく、誰かの為に。。。。

そんな利用者様の思いを大切に、

生活のモチベーションを共感していけたら素敵ですね。



施設だより

介護老人保健施設

ひばりの里

八戸市

「目標は百羽鶴！」

当荘に併設されている、デイケアセンターでは、現在通所利用されている方々が日々リハビリに励み、元気にすごされています。

平成24年に100歳を迎えられた利用者様も今年で101歳になられ、元気に手芸をされています。現在は千羽鶴ならぬ百羽鶴を目標に、真剣な表情で取り組まれています。

ご本人様より「大変だけど、完成が楽しみだ！」と笑顔で話されていました。

写真は手芸作品と創作風景です。



施設だより

介護老人保健施設

ながだい荘

弘前市

「陶芸体験」

老健のへじ通所リハビリテーションでは、利用者様が楽しく生きがいを持ってリハビリが出来るよう、日々のレクリエーションや趣味活動の中に生活リハビリを取り入れ実施しています。今回は地域で活動している陶芸講師の協力を頂き陶芸に挑戦しました。土の感触を楽しみながら、考えた形と模様を真剣に造形し、各自の個性ある作品が出来上がり、達成感を得ることが出来ました。利用者様にとても好評で「また、やりたい。」との声も多く、今後も継続実施する事となりました。今後も利用者様が、楽しくリハビリに取り組んでいけるよう、職員一同お手伝いしていきます。



楽しいね！ 頭の体操！！ ～学習療法～

平成24年9月よりみちのく苑および関係グループで、くもん学習療法を導入しました。入所されている方は週5回、通所利用の方は宿題を持ち帰ったりして週3回以上の実施回数確保しています。毎日コツコツと実施し、年末には年賀状作成を企画しチャレンジしました。書ける喜び、もらう感動です。

導入から間もないのですが、仙台市で行われた学習療法シンポジウムで現在の様子を掲示発表してきました。



施設だより

介護老人保健施設

みちのく苑

十和田市

青森県老人保健施設マップ

No. 施設名 電話番号

(青森地域)

1	青森ナーシングライフ	TEL017-726-5211
2	青照苑	TEL017-788-3000
3	いちい荘	TEL017-726-3855
4	甲田苑	TEL017-728-3939
5	すずかけの里	TEL017-761-1111
6	桐紫苑	TEL017-738-8080
7	ニューライフ芙蓉	TEL017-728-2200
8	みちのく青海荘	TEL017-741-5188
9	ケアガーデン青森	TEL017-744-3311
10	カトレア	TEL017-739-6100
11	たんぼぼ	TEL0174-22-3070
12	なみおか	TEL0172-69-1120
13	津軽医院	TEL0172-62-3101
14	石木医院	TEL017-752-3015

(西北五地域)

15	緑風苑	TEL0173-33-4155
16	ながだい荘	TEL0173-72-1122
17	えんじゅの里	TEL0173-42-3734
18	しらかみのさと	TEL0173-84-3111
19	サンライフかなぎ	TEL0173-53-3292
20	湖水荘	TEL0173-22-5694

(津軽地域)

21	ケアセンター弘前	TEL0172-87-0111
22	平成の家	TEL0172-95-3981
23	うめむら	TEL0172-32-3593
24	弘前リハビリセンター	TEL0172-27-3322

25	ヴィラ弘前	TEL0172-37-7300
26	幸陽荘	TEL0172-37-8311
27	希望ヶ丘ホーム	TEL0172-87-6655
28	ふじ苑	TEL0172-38-5550
29	サンタハウス弘前	TEL0172-99-1133
30	あしたばの里・黒石	TEL0172-53-1213
31	鳥井野荘	TEL0172-82-5600
32	のぞみ	TEL0172-57-5100
33	三笠ケアセンター	TEL0172-44-8811
34	明生園	TEL0172-65-4066
35	つがる	TEL0172-45-2231





(八戸地域)

36	はくじゅ	TEL0178-28-4001
37	ひばりの里	TEL0178-96-1212
38	サンライフ豊寿苑	TEL0178-29-3232
39	リハビリパーク	TEL0178-47-3000
40	南山苑	TEL0178-27-3027
41	ナーシングホームオリーブ	TEL0178-31-5500
42	ほほえみ三戸	TEL0179-23-5050
43	老健なんぶ	TEL0179-34-3260
44	孔明荘	TEL0178-84-3333
45	南郷メディエルデプラザ	TEL0178-82-2000
46	しんごう	TEL0178-78-3181
47	しもだ	TEL0178-56-4888
48	たっこ	TEL0179-32-3172

(上北地域)

49	みちのく苑	TEL0176-25-1333
50	みのり苑	TEL0176-25-1100
51	ハートランド	TEL0176-25-0122
52	とわだ	TEL0176-27-3131
53	やすらぎ苑	TEL0176-59-3784
54	ナーシングセンター柏葉	TEL0176-62-2200
55	えぼし	TEL0175-65-2666
56	のへじ	TEL0175-65-2333
57	野辺地病院	TEL0175-64-3211

(下北地域)

58	シルバーケアセンターむつ	TEL0175-22-9925
59	はまなす苑	TEL0175-26-3333
60	のほなしょうぶ	TEL0175-28-5400
61	やげん	TEL0175-34-2211



川内

◆編集後記◆

連日厳しい暑さが続いています。体調を崩されていますか？

食中毒や、熱中症に気を付けて過ごしましょう。

平成25年度青森県喀痰吸引等研修も始まりました。

ホームページの方にも掲載しますのでご覧下さい。

平成二十五年

七月吉日

広報委員一同

●発行／公益社団法人 青森県老人保健施設協会
〒030-0822 青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ3F
TEL017-776-3868 FAX017-776-3918
URL <http://www.roken-aomori.or.jp>
E-mail jimukyoku@roken-aomori.or.jp

●印刷／青森コロニー印刷
〒030-0943 青森市幸畑字松元62の3 TEL017-738-2021